

## ■第5回 専門部会の記録

日 時：令和3年12月23日（木）19時～21時

場 所：オンライン会議

出席者：榎井部会長、高谷副部会長、神野委員、森委員、イラ委員、ジャ委員、金委員、  
船越委員、花山委員、多田委員、金子委員、吉川アドバイザー、比嘉アドバイザー

事務局：豊中市人権政策課 堀山人権政策課参事兼課長、片岡課長補佐、野邊

（公財）とよなか国際交流協会 山野上事務局長、山本事務局次長、山根事業主任

次 第：1 議題

- （1）アンケート及びインタビュー調査結果について
- （2）報告会及び今後のスケジュールについて
- （3）その他

### 会議の経過

○開会

○配布資料の確認

#### 【部会長】

- ・ それでは次第に沿って進めたい。
- ・ 議題1について事務局より説明を。

○事務局よりアンケート及びインタビュー調査結果について資料説明

#### 【部会長】

- ・ 今、調査結果について私と副部会長で役割分担し分析等を行っている。今日はその辺りの特徴的な部分を紹介するように頼まれていたので、まだ十分な形にはなっていないがどのように考えているかを少しみなさんにお話し、みなさんからも意見や盛り込むべき部分などをうかがえればと思う。後で副部会長からも紹介をしてもらうが、私の方はどちらかというと行政の施策につながるような部分を分析していきたいと思っている。
- ・ まずひとつは、豊中に住む外国人の傾向がかなり変わってきているのではないかという点。アンケートの回答者が23.7%ということで、答えられなかった人もいることも前提とした上で、特徴的なこととしては年齢層が圧倒的に若く20～40歳代が多いことが分かり、地域にばらつきがあることなども気に留めておく必要があるだろう。
- ・ 居住年数などを見ても偏っており、20～40歳代の居住年数はそこまで長くないことが分かる。1～4年がかなりの数を占め、更に在留資格を見ても専門職というよりいわゆる技能実習や技術・人文・国際であったりと、どちらかというとハードワークで社会の底辺を支えるような仕事についている人が多く見られる。

- ・ これまでは外国人住民施策というと、顔が見えてアプローチしてくる人というイメージだったが、それ以上にそうではない人が増えており、しかもかなり流動的であり、従来イメージしていた外国人住民という定着した人ではない層が増えている点を考えなければならない。われわれが従来外国人住民施策と言っていたときに見えづらいような人たちが増えているのではないかという課題が浮かんでくる。
- ・ さらに、そうした見えづらい人たちが公的な場所に出てこないということは、普段地域と接点を持たないような人たちが非常に増えているのではないかということを考えなければならない。
- ・ それらを前提として、若い労働者への着目や、外国人女性についても着目していく必要性、妊娠出産、育児をしていく人たちが実は地域とつながることができない、つながるのが怖いといった声もあがってきている。特に子育てについて不安を持っている人が増えているのではないか。
- ・ また、やはり日本のなかで育っていくような子どもたちにもきちんと目を留めていかなければならないのではないか。親の世代が日本語の読み書きなどができないことで子どもが肩代わりしているような点が見られるのではないか。できれば豊中の教育で取り組んできたようなことも少し入れて考えていければと思う。
- ・ それらをふまえて行政の方でできることがいくつか出て来たのではないかと考えている。ひとつは地域で顔の見えない、地域とつながっていない人たちと如何につながることができるかといった際に、公的機関の役割としてどこでキャッチアップできるのか、国際交流協会もふくめてもう少し丁寧に考えていかなければならないのではないか。
- ・ ワクチンの話などでは接種会場がたまたま国際交流センターだったのでこうしたものを知ることができたという声があったり、何かきっかけの窓口となるものが、公的で人が顔を出さなければならない場でどうつないでいくかということを考えなければならないだろう。ワクチンであったり、福祉の窓口などに言葉の分からない人が出てきた際にどう考えていくか。あるいは自分の住んでいる所と職場の半径数キロの間に生活が完結していて、しかも朝早くから夜遅くまで働いているような人たちに対してどういうアプローチができるかということ、もう少し地域を細かく分けて見ていく必要があるのではないか。
- ・ 今回取り分け南部地域といった、従来発信は北部の市役所近くから発信してきたこと以上のより細かな取り組みが必要ではないだろうか。つまり、どこでそうした外国人をキャッチアップできるのかといった際の公的な場所や公的な機関、公的な制度の役割が重要になってくるのではないか。
- ・ もう一点は、まだ十分に中から引っ張り出せてはいないが、この人たちが孤立していたり情報を持っていなかったりつながっていないことから、つながる機会を作れるのはもしかすると行政の公的な役割として大きなものではないか。防災訓練の話なども少し出ていたと思うが、日常のなかでつながりをつくれるような公的な場をどう生み出せるか、考えていければと思う。
- ・ 安全や安心、信頼ができるものを公的な場所にどうつくるのか、いろいろな場所と連携しながらつくっていく必要があるということが言えるのではないか。

### 【副部会長】

- ・私の方ではテーマとしてはコロナが生活、主に経済的な部分にどのような影響を与えたのかを中心に書ければと思っている。
- ・見たところ印象としてはおしなべて影響を受けているという印象で、特にネパールやベトナムの人の比率が高くなっているが、コロナで給料が減ったというのは大体の在留資格等で半分以上の人で減ったと回答しており、一概に同様の調査が無いので日本人と比べることはできないが、かなりの外国人住民が影響を受けているのではないかと感じる。
- ・今回、永住者は外したことでいわゆる活動に基づく在留資格が主となっているが、一般では技術・人文・国際業務は専門職として入管の法制度上となっているが、その人たちでも4割ほどは給料が減っている形になっており、あるいは技能などではもっと減っているような、そのあたりを書ければと思っている。
- ・また、それとも若干関係するが、日本の全体のコロナの調査でいわれているのは、今回のコロナ禍の影響は非常にジェンダー差があり、女性に大きい影響があるといわれているが、外国人でもどちらかというとなら女性の方が影響を受けている面があるように見える。しかしそこまで日本人の男女の差ほどまではないので、やはり外国人ということの方がより大きなファクターとなっている気がする。
- ・全体でも元々、教授などの資格の人は若干影響を免れているようだが、やはり不安定な雇用形態や正社員や契約社員であっても必ずしも安定という形ではなく、例えば技術・人文・国際の人は別だが特定技能の人などでは期限があるし、一般的な正社員とは比べられないが全体的な影響が出ている。
- ・ただそうすると、制度的なところとして主に生活保護の対象外の人がほとんどなので、受ける手立てが非常に限られている。そのため、市に対する政策の提案が非常に難しい。ほとんど人の背景にあるのが在留資格であったり生活保護からの排除といった部分は国の方針として決まっていることなので、地方自治体にできることには限界があり、どのように書くべきか難しい。しかし言ってみれば、市や自治体が多文化共生を進めようというときにある種の障壁のようなものは、在留資格や定住期限の限られた人などもふくめ、市が長期的に共生を進めていこうとするのを根本で阻んでいるのは国の政策であるような感じになってしまっているのではないかとどうしても感じてしまう点だ。

### 【部会長】

- ・報告書の説明と私と高谷委員からどのように考えているのかの報告があったが、委員のみなさんからも意見や、ぜひこの部分は全体のこととして書くべきだという点など発言いただければと思う。

### 【委員】

- ・ざっと目を通したが、いろいろな問題があるなという印象を受けた。これを整理していただき大変な苦勞だったと思うのでありがたい。
- ・いろんな印象があるなか感じた点でいえば、アンケート調査の結果では公的機関の利用状況においてほとんど知らなかったというのが印象に残った。市や国際交流センターが実施するサービスの周知状況のついても、広報活動の周知度が足りないのか、思ったより少なかったと感じる。

- ・インタビュー調査の結果については、情報や言葉に関してや近所のつきあいなど、たとえばママ友になるのに遠慮したりと相当気を使っているという印象がある。
- ・総じて、公的支援の利用も近所づきあいや情報の入手について共通しているのは、言葉の壁、日本語が分からないので相談もしづらく、コロナで人との接触も減り孤独や孤立の問題が出ているのではないかと感じる。言葉の壁が一番大きな問題だと認識したので、国際交流センターも市も外国人の相談窓口があるにも関わらず、そもそも知らない人が多いので、ワクチン接種の案内からセンターの周知になったことなどはよかったと思う。また、センターでのイベントや実際相談に行ったりした人は良かったとか自己肯定感が出たとの回答もあったようなので、せっかく国際交流センターというものがあり、10言語まで対応可能な資源があるのだから、どうやってこれを周知していくかがこれからの課題だと思う。たとえば市役所の窓口で転入時に国際交流センターについて案内したり情報紙などを渡すなどするのもひとつの手ではないだろうか。
- ・市役所の受付で、外国人が来た場合に何か対応をしているのか尋ねたところ、配布の案内は全部漢字で書かれており、中国の人などは想像できると思うが、ルビを打ったりひらがなにしてはどうかと感じた。同時に渡す際に国際交流センターがあることを伝え、そこなら母国語でも通じるということ案内しPRしてはどうか。市役所の各課では4か国語で説明があるが、まず受付で訪ねた際にも対応ができる体制を取ってもらえればと思う。
- ・コロナの情報がなかなか入らないという声はかなりあったが、広報も全住民に配布しているが、コロナに関しては広報の冒頭に重要な案内は掲載されているので、この部分だけでも人的パワーも必要だがやさしい日本語で掲載すればよかったのではないかと感じた。

#### 【部会長】

- ・丁寧に読み込んでいただき、また市役所まで尋ねにいていただいたようだ。
- ・他に何かあるだろうか。

#### 【委員】

- ・外国人窓口の相談員をしているが、どこで周知するかという話があったが、市役所はとても重要でポイントになる所だと思う。すべての人が必ず一度はやってくる場所なので、われわれもとても気を付けているのは必ず相談員を呼んでいただくようにし、呼べない場合でもできるだけたくさんの人に情報を渡していただくようお願いしている。また、市役所にもお願いしているが、ラックに外国人のための情報が各種あるがもう少し目立つ場所に置いたり、そこにあることが分かるような矢印を設けるなどしてほしい。
- ・市の受付の人には外国人が来た場合は少なくとも国際交流センターのこと、また今は広報も多言語版が出ているのでそれを渡すだけでも困ったときにどこへ行けばいいかわかるのではないかと感じる。市役所に来るときはまだそれほど大きな問題を抱えていないのでいよいよ困ったときに助かる。
- ・日本人と一緒に来ている場合、市役所の人も遠慮してあまり案内しないようだが、日本人の家族の人や雇い主と一緒に来ている時などはサポートがあるように見えるがそれだけでは脆弱なので、そういう人こそいよいよ困ったときにどうすればいいのか情報提供していただきたい。

【部会長】

- ・現場からの実感のこもった意見だと思う。

【委員】

- ・アンケート調査でインドネシア人は1人でインタビューもあまりやりたいという手は挙がらなかったりしたのだが、アンケートの発送時の滞在資格の内訳などはデータが出ているのか。

【事務局】

- ・アンケート結果にはそれぞれの出身や在留資格を掲載しており、インドネシアでいえば留学が一番多くなっている。

【部会長】

- ・他に意見がないようであれば、今日で最後の専門部会となるのでこのあと最終のまとめに入っていくことになるため、後程スケジュール的に個人的に意見がある場合はいつまでにという期限を教えていただければと思う。
- ・では次の議題へ。

○事務局より報告会及び今後のスケジュールについて資料説明

【部会長】

- ・なにか質問などはあるだろうか。報告会2月20日ということで、また来年度この専門部会が進化系になるとのことだ。ほかに意見がなければスケジュールに沿って進めていただきたいと思う。
- ・では最後にその他あればどうぞ。

○事務局よりその他案件について案内

【部会長】

- ・執筆原稿をまず出していただき、それを集約し見せていただき、それを見て最終的な原稿にまとめていく流れということでよいか。

【事務局】

- ・そうなる。

【部会長】

- ・最後の追い込みの時期だ。まだ原稿を出していない人もみなさん頑張って来年度もあるということを励みにぜひ提出をお願いしたい。
- ・では以上で専門部会は終了となるが、報告書の作成や報告会への参加、来年度からのネットワーク会議など、今後もこのつながりを通じて誰もが住みやすい豊中市になるようみなさんの意見をうかがっていきたいと思う。引き続きよろしくをお願いしたい。

(以上)